

**聴覚障がいのある乳幼児が
手話を習得する機会の提供を**

共産党議員団 立道 秀彦

問 聴覚障がいがある方が手話を習得する機会を保障することは、生き生きとした社会参加に欠かせない。特に乳幼児が手話を習得する機会

の確保は言葉や物事を理解する上で重要であるため、県や近隣市町と連携し、聴覚障がい者団体と協働して取り組むことを提案するが、見解は

答 聴覚障がいのある子どもたちが乳幼児期に手話を習得する取り組みについては、大津市手話施策推進協議会において議論を深めていく。



大津市が作成している手話ハンドブック

新型コロナウイルス流行による高齢者の健康二次被害を防ぐ取り組みを

清正会 谷 祐治

問 ※コロナフレイルが社会問題となっており、感染症対策とともに未来のために健康に目を向けることは必要かつ重要である。高齢者へのアンケート結果を踏まえた新型コロナウイルスによる高齢者の健康二次被害を防ぐための今後の方針と取り組みは

答 アンケート結果を踏まえ、対象者に応じた運動や口腔機能向上に向けた教室の実施など、参加者に応じたフレイル予防や健康づくりが継続できる事業に取り組んでいく。

**認知症施策を推進するため
条例制定の検討を**

立志会 青山 三四郎

問 認知症に優しいまちづくりを推進していくため、国の動向も見ながら、認知症施策に関する条例の制定を検討すべきと考えるが、見解は

答 おおつゴールドプランの中で認知症施策を着実に推進し、広く周知啓発していくことが重要と考える。条例化については、他都市の状況も参考に、まずは期待される効果や施策を次期プランに取り入れ、着実に推進していく積み重ねの上で、市民全体の意識の醸成を図っていく。

市政一般

**交通安全基金の予算確保に
ふるさと納税などの活用を**

新和会 笠谷 洋佑

問 交通安全条例の制定とともに創設される本基金について、全国的に交通安全対策への関心が高まる中で、一般財源からの繰り入れと同時に、ふるさと納税での使い道を選択する寄付やガバメントクラウドファンディングなどを活用し予算確保に努めることも効果的と考えるが、見解は

答 交通安全思想の普及の観点からも有用であるため、本基金の運用に加え、ふるさと納税などの活用も検討していく。

**文化財家族参観事業の
対象施設拡充を**

新和会 河村 浩史

問 コロナ禍で多くの家族がふれあいの場に向く機会を失っており、アフターコロナを見据え、家族のふれあい促進のためにも、市立科学館やプールなど本事業により無料で利用できる施設を拡充すべきでは

答 令和4年度から歴史博物館を対象施設に追加することを検討しており、長等創作展示館など、過去に本事業の対象となっていた市の施設を追加できないか検討し、関係部局間で協議していく。



令和4年度から対象施設に追加される歴史博物館

**脱炭素社会に向けた市としての
具体的な取り組み方針は**

新和会 西村 和典

問 脱炭素社会の実現に向けては、市民、事業者、行政など社会全体が協働して取り組む必要がある中で、

まずは市が率先して行動で示すべきと考えるが、具体的な方針は

答 公用車における電気自動車の導入や、本庁舎の電力を全て再生可能エネルギー由来に切り替えるなどの取り組みを推進する。また、2050年にCO₂の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を令和3年度中に表明する方針である。

**歴史・文化の継承のため
文化財の年次的な調査研究を**

新和会 伴 孝昭

問 本市には国や地方公共団体から指定を受けていない文化財が数多く残されており、歴史・文化の次世代への継承のため、それらに対し年次の調査や研究が必要と考えるが、現在の取り組み状況と今後の方針は

答 歴史博物館の展示に伴う調査や所有者からの相談などに基づく調査を実施しているが、今後は関係課が連携・協力し、より広範な調査や研究に努め、その成果を文化財保護行政に生かしていく。

**JR石山駅周辺でのマナーの
啓発や注意喚起の強化を**

湖誠会 寺田 英幸

問 JR石山駅のペDESTリアンデッキ下の通路では、禁止されているスケートボードでの滑走や、ごみのポイ捨てが後を絶たず、一定対策はされているが解決には至っていない。これらの問題に対するマナーの啓発や注意喚起など、今後の対策は

(次ページへ続く)

※文化財家族参観事業 企業局が発行する「水道・ガス等ご使用量のお知らせ」を提示することで、毎月第3日曜日(家族ふれあいサンデー)に市内の対象寺院などを無料参観できる事業

※ガバメントクラウドファンディング 寄付金の使い道を具体的にプロジェクト化し、共感した人から寄付を募る仕組み

※おおつゴールドプラン 大津市高齢者福祉計画・介護保険事業計画。3年ごとに策定している

※コロナフレイル コロナ禍で体が動かさない、食事が偏る、人と会話が減るなどの生活が続く、体や認知機能に影響が出て、介護が必要な一歩手前の虚弱な状態に陥ること